２学年　松前学Ⅰ（伝統文化教育）

本校で実践しているふるさと学習「松前学」。その取り組みの一つとして実践した「松前祇園囃子」の練習が３月１５日、最終日を迎えました。これまで松前学では、松前の歴史や文化に焦点をあてて学習を進めてきましたが、夏休み中に**「地域の方々から松前を知る」というテーマでフィールドワーク**を行ったことが、この「松前祇園囃子」練習の取り組みを行うきっかけでした。

―― 松前には、自分たちの知らなかった素晴らしい伝統文化がある ――と気付いた生徒たちが、**『自分たちが伝統芸能を習って、後世に伝えていくんだ！』という強い意志**を持ち、地域の保存会の方々にアプローチ。お忙しい中、ゲストティーチャーを引き受けてくださり、１１月から松前高校にて練習会が始まりました。

篠笛の音がうまく鳴らず、悔しくて涙を流しながら取り組んだ生徒、楽しそうに笑顔で踊る生徒、力強い掛け声で太鼓をたたく生徒、指使いに苦労しながらも三味線を奏でる生徒、彼らに負けじと笛に取り組んだ教師（笑）。お囃子の音色に先人達の思いを感じ取りながら、生徒も教師も一丸となって取り組んだ結果！３月１５日、今年度最後の練習で見事、**『松前祇園囃子』の中の一曲である「梅ヶ枝」を生徒たちだけで演奏**することができました！！保存会の方からも、「短期間でここまで上達できるなんて素晴らしい！」「高校生が、松前の伝統文化に目を向けてくれて非常にうれしい！」という言葉をいただき、生徒も教師も非常にうれしく感じています。

この伝統文化教育を通じて、生徒一人一人が「伝統とは何か」「松前町の素晴らしさ」など、改めて松前町に対する思いをふくらませ、一回りも二回りも成長できました。伝統芸能保存会の皆さま、ご協力ありがとうございました。

最後に記念撮影「パシャリ♪」　→